

## ～岩手県・沢内村“生命村長”の奮戦記～



とき 平成22年 6月27日(日)

〈上映時間〉

- ①10:00~12:00
- ②13:00~15:00
- ③16:00~18:00

いすれも  
全席自由席  
です

ところ 富山県民会館大ホール

## チケット価格

	前売券	当日券
大人	1,000円	1,700円
中学・高校生	800円	1,200円

本上映は 6/27(日) 3回上映

ここに『自分たちで生命を守つた村』という岩波新書があります。六八年、悩み多い時代にこの本に出会いました。同じタイトルで白黒の記録映画が学園祭で上映され、ラストで雪上車のあげる雪煙がカラーに見えたかこそ、見てほしいと思

えます。ぜひ今日の感動を持ち帰っています。澤内村は、ともすれば全国に先がけて乳幼児や老人医療費を無料化したことが強調されますが、そのためには村人がどれくらい努力したかこそ、見てほしいと思

います。映がより多くの方々でいっぱいになるようご協力を願いたいです。

## 映画「いのちの山河」に寄せて

富山医科薬科大学 元学長 高久 晃

## いのちの山河

3/18の試写会に249人



村人の努力を見てほしい

実行委員長 小熊 清史

三月十八日、岩手県沢内村を舞台にした映画「いのちの山河」の試写会が、富山市・サンシップとやまで行われ、一四九人が参加しました。

主催の富山県上映実行委員会を代表して挨拶に立った小熊清史氏は、六月の本上映に向けてチケット普及への協力を呼びかけました。



## 参加者アンケートから

● 感動の一言に尽きる。県の行政官が医療費無料化は法律違反だというのに対して、最高裁まで争あうではないか、憲法が保障している、というところが胸がすく。乳児死亡が一年間ゼロ達成で夜中に村長の家にまで電話してくる病院事務長、保健師などの喜びが伝わってくる。

若い夫婦が病院で「ばあちゃんから、お前顔色がよくない、医者に行ってこい、と言われてきた」「ばあちゃんが優しくなった」という場面もジワーッとくるところだった。こんなふうに感動した場面を一つひとつ書いていると全編これみな感動なのであります。

● すばらしい内容でした。1954年といえば私の生まれた年です。82年に砺波の病院に赴任したときのことを思い出しました。前任の小児科医師は、「自分が来たばかりの時は、市の山間部は雪も多く交通も不便で乳児死亡率や妊産婦死亡率が高かった。」とこぼしておられました。「沢内村」はそんなに遠い過去ではない、と感じました。

深沢村長は本当にすばらしい方ですね。最後に亡くなって吹雪の中を村へ帰るとき、村民が道の両側に並んでおられるのを見て涙が止まりませんでした。

● 大変心に残るよい映画でした。日頃から映画が好きで劇場によく足を運びますが、どちらかと言うと大々的にテレビやネットでコマーシャルしている、一般的な人気のある映画しか観たことがなかったのですが、今回このような作品を観る機会に会えて嬉しく思います。大変な時代でありながら暗くならない映画で、深沢さんの生き方にとても惹かれました。

● 身につまされる大変良い映画です。昭和24～28年の間に、妹三人が生後数日～数ヶ月で亡くなっています。母親はその頃どうしていたのか、どんな思いだったのか、今となっては聞くことができません。皆にぜひすすめたい映画です。

藤院長の後任として赴任した増田君も、深沢村長の精神を実行したすばらしい医師である。

「今の国のやり方では、この村は憲法二十五条で保障

初めての方もお気軽にどうぞ  
作品大募集!



昨年の保険医作品展から

今年は初夏の開催です!  
秋ではありません

とき 6/30 (水) ~7/4 (日)  
ところ 富山県民会館 2FギャラリーC  
後援 富山県・富山市

- 出品料は無料
- 搬入・搬出は協会が責任をもって行います（保険付）
- お申し込みは同封のチラシにてお願いします